

第 27 回日本口腔顎顔面技工学会学術大会 企画講演

愛和義肢製作所・愛知医科大学病院形成外科研究員 森下裕司



「明日からできる医科技工」～愛知医科大学病院形成外科はなぜ歯科技工士を採用することになったか？

2021 年 4 月、愛知医科大学病院に「形成外科体表面補綴外来」の開設と研究開発と製作を行う研究室が設置された。患者にとって必要とされるエピテーゼ・プロテーゼや他診療科の依頼による装具製作を専門とする診療部門である。

エピテーゼ・プロテーゼの製作は病気を克服し、機能回復や社会復帰を目指す要望に応えるものであり、製作者には病気への理解や心理面への配慮、感染などの衛生面への知識も求められる。また関係する医師または医療従事者、患者の家族などとの連携をもった医療チームとしてのアプローチが必要となる。

教育への提言

歯科大学の養成課程においては口腔外科学の分野として顎顔面補綴がその履修分野として加えられているが、歯科技工士養成の課程では一部の学校に取り入れられているに過ぎない。歯科技工士がエピテーゼ・プロテーゼの製作に取り組むようになるには現在の教育課程に多くの追加科目が必要であろう。

歯科技工士の可能性

医療現場においてはデジタル・ロボット化が大きく発展し、ダ・ヴィンチ（内視鏡手術支

援ロボット)などの活用が正確な手術や時間の短縮に大きなウェートを占めるようになってきている。しかし、医療の現場では「既成品を調整出来ないか?」「材質を変えられないか?」などの問題が混在する。歯科技工士の材料の加工する技術は個々の患者にあったオーダーメイドの医療を提供することが可能となる。

顎顔面骨折の手術用シミュレーションモデルや乳房再建手術に用いるサージカルステントの製作、矯正技術を活かした耳介変形症の非観血的矯正装具の製作には歯科技工士の技術が必要とされる。

「医科技工士」の道と展望

愛知医科大学病院は歯科口腔外科・歯科技工士としての職種の枠にとらわれることなく、他診療科からの依頼も積極的に受け入れてきた。その中で形成外科をはじめとする診療部門での学会発表の機会をいただいた。発表の中で他施設から「当院にも歯科があり、歯科技工士にお願いすれば製作してもらえるか?」という問い合わせが数多くある。

国家資格の医療技術者として歯科技工士によるエビテーゼ・プロテーゼの製作技法の確立と職域の拡大を目指した医科技工士の養成が求められている。

略歴

1981	3	東海歯科医療専門学校卒業
1984	4	愛知医科大学病院歯科口腔外科勤務
1991	8	イエーテボリ大学(スウェーデン)ブローネマルククリニック インプラント研修
1998	7	UCLA(アメリカ・ロサンゼルス)メディカルセンター 顎顔面補綴クリニック研修
2006	3	八洲学園大学卒業
2021	3	愛知医科大学病院歯科口腔外科退職
2021	4	愛知医科大学病院形成外科 体表面補綴外来勤務
2025	3	愛知医科大学病院形成外科 体表面補綴外来退職
	4	愛知医科大学形成外科研究員 現在に至る
	4	愛和義肢製作所勤務 現在に至る

愛知県歯科技工士会所属

日本歯科技工学会 認定歯科技工士 第336号

日本歯科技工学会 専門歯科技工士 指導歯科技工士(顎顔面補綴学) 第77号

日本歯科技工士会 認定講師 第161号

全技協認定顎顔面補綴技工士 12-09

職務経歴（現在に至る）

広島大学歯学部口腔保健工学科 客員講師

大阪大学歯学部附属歯科技工士専門学校 非常勤講師

東洋医療専門学校 歯科技工士科 非常勤講師

東海歯科医療専門学校 歯科技工士学科 非常勤講師

名古屋歯科医療専門学校 歯科技工士学科 非常勤講師

京都医療技術専門学校 歯科技工士科 非常勤講師

富山総合歯科医療学院 歯科技工学科 非常勤講師

広島歯科技術専門学校 歯科技工士科 非常勤講師

第27回日本口腔顎顔面技工学会学術大会

周術期オーラルマネジメントにおける口腔内装置の活用

兵庫医科大学医学部歯科口腔外科学講座

岸本 裕充

平成24年度の診療報酬改定で「周術期口腔機能管理料」が新設され、多くの病院歯科口腔外科で取り組まれるようになった。当時は保険給付外であった「気管内挿管時の口腔内装置」も、現在は給付の対象となり、周術期のオーラルマネジメントにおいて口腔内装置の重要性は非常に高まった。本講演では、当科での口腔内装置の応用事例を紹介し、周術期のオーラルマネジメントの質の向上に寄与できれば幸いである。 189文字

岸本先生 略歴（要確認）

略歴

1989年3月 大阪大学歯学部卒業

1989年6月 兵庫医科大学病院臨床研修医（歯科口腔外科）

1996年9月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手

2002年1月～2004年1月 米国インディアナ大学医学部外科ポスドク

2005年4月 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 講師

2009年4月 同 准教授

2013年4月 同 主任教授，現在に至る

日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医， 同 指導医

日本口腔インプラント学会認定 専門医， 同 指導医

ICD 制度協議会認定 インфекションコントロールドクター

日本口腔感染症学会 理事長

日本口腔外科学会 副理事

日本口腔インプラント学会 理事

日本歯科薬物療法学会 理事

日本口腔リハビリテーション学会 理事

口腔顔面神経機能学会 理事，他



「新規技術を取り入れた口腔がん治療の現在と今後の課題」

兵庫医科大学 医学部 教授 野口一馬

口腔癌治療はこの30年で大きく変化し、患者の生存率だけでなくQOLや機能温存も格段に進歩しました。兵庫医科大学の歯科口腔外科では、年間50名を超える口腔がん患者を診療しており、日本口腔腫瘍学会の口腔がん治療研修機関です。

最近の口腔がんの治療のエボックメイキングな出来事として①MRI、PET-CTの導入および性能の飛躍的向上 ②病理組織検査の均一化（口腔病理医との二人三脚の診断・手術）と新しい「口腔潜在的悪性疾患」という概念の導入 ③ガイドラインの整備と頭頸部カンファレンスによる耳鼻咽喉科・頭頸部外科との技術交流 ④新しい手術デバイス（超音波血管凝固装置や超音波骨切削器具など）の登場やオーダーメイドチタン製顎骨再建用プレートへの応用 ⑤神経・筋肉・血管を保存した嚥下機能を考慮した手術方法の開発（一次縫縮の禁止・下顎神経の保存・Gehanno縫合など）と広範囲顎骨支持型補綴装置の応用による咀嚼機能の再建 ⑥分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬の導入と遠隔転移に対する治療 ⑦がんゲノム治療の登場 ⑧新しい癌治療である光免疫療法 などです。特に歯科技工部門との関わりでは③にあげたガイドラインの整備から顎補綴の立ち位置が明確になったことや④新しい手術術式の導入、そして⑤嚥下機能を考慮した手術方法の開発と広範囲顎骨支持型補綴装置の応用による咀嚼機能の再建ではないかと思います。例えば上顎歯肉癌の術後に以前は頻繁に作成されていた塞栓子付きの顎義歯を作成する機会は減り、インプラントを併用した広範囲顎骨支持型補綴が多くなりました。これは形成外科学会のガイドラインによるものです。CAD-CAMを応用した下顎再建は審美性を向上させ、患者のQOLの向上に寄与しています。このような術後のQOLを担保するために手術方法も進歩しています。本講演では手術と歯科技工技術が密接な関係であって、両者が患者のQOLを規定していることを説明します。

最後に⑦がんゲノム治療と⑧頭頸部アルミノックス治療（光免疫療法）という最先端の口腔がん治療をお示しし、現在の口腔癌治療の立ち位置を明示したいと思います。

野口一馬 略歴

平成4年 3月 31日 福岡県立九州歯科大学 卒業
平成4年 6月 1日 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 研究生
平成5年 5月 1日 兵庫医科大学病院歯科口腔外科 臨床研修医
平成6年 5月 1日 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 研究生
平成8年 1月 1日 社会保険 星ヶ丘厚生年金病院 歯科 医員
平成10年 1月 1日 兵庫医科大学病院歯科口腔外科 医員
平成10年 7月 1日 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 助手
平成17年 4月 1日 兵庫医科大学歯科口腔外科学講座 学内講師
平成19年 4月 1日 兵庫医科大学 講師
平成25年10月 1日 兵庫医科大学 准教授
平成28年4月 1日 兵庫医科大学 研究管理責任者（歯科口腔外科学）
(Principal investigator: PI)
令和5年4月1日 兵庫医科大学 医学部 教授

資格

平成16年3月 学位受領（医学博士）乙259号
平成17年度 日本医師会医療安全推進者養成講座 終了
平成13年10月 （公社）日本口腔外科学会 口腔外科専門医（第1215号）
平成17年 7月 （公社）日本口腔外科学会 口腔外科指導医（第883号）
平成22年 4月 （一社）日本がん治療認定医機構 暫定教育医
（歯科口腔外科）（第098098号）
平成24年 4月 （一社）日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
（歯科口腔外科）（第11140098号）
平成26年4月 日本口腔感染症学会 認定医（D70号）
平成26年10月 日本口腔腫瘍学会 暫定指導医（14005号）
平成27年4月 日本口腔外科学会 代議員
平成29年5月 NPO 法人 日本口腔科学会 認定医（3-16428号）
平成30年9月 日本口腔腫瘍学会 口腔がん専門医（18012号）
令和元年4月 日本口腔腫瘍学会 代議員

令和元年4月 「Molecular Medicine Reports (Spandidos Publishers)」

Editorial Board

令和6年12月 日本口腔腫瘍学会 口腔がんアルミノックス治療指導医(001号)

令和6年4月 日本頭頸部学会 代議員

学会活動

日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本癌治療学会・日本頭頸部癌学会・日本口腔腫瘍学会・日本口腔組織培養学会・日本口腔感染症学会など多数

平成25年10月より 日本口腔組織培養学会 理事

平成28年10月より 日本口腔外科学会 代議員

平成29年3月より 口腔外科学会および口腔腫瘍学会「口腔がん診療ガイドライン改訂委員」

平成30年度より口腔ケア学会「がん化学療法口腔ケアガイドライン」作成委員

平成30年4月 日本口腔腫瘍学会 代議員

平成30年10月より日本口腔感染症学会 理事

令和2年4月 日本口腔組織培養学会 幹事長(常任理事)

令和4年4月 日本口腔腫瘍学会「高齢者における口腔がん診療ガイドライン」作成委員

令和5年11月 日本口腔組織培養学会 理事長

令和6年4月 日本口腔腫瘍学会 口腔がんアルミノックス治療運営委員会委員およびガイドライン作成委員

賞罰

平成14年11月 第46回 日本口腔外科学会総会 優秀ポスター賞

平成18年11月 第50回 日本口腔外科学会総会 優秀ポスター賞

平成27年5月 第69回日本口腔科学会学術集会 学会優秀ポスター賞

平成27年9月 兵庫医科大学 優秀大学院賞(指導教官)

平成23年度 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服事業

「Gorlin 症候群の病態解明と治療法確立のための臨床的研究」研究班

平成 28 年 11 月 18 日 第 53 回 日本口腔組織培養学会学術奨励賞

論文名「ヘッジホッグシグナルと口腔疾患」

平成 30 年度 兵庫医科大学教員活動奨励賞 受賞

令和 2 年 1 月 日本口腔腫瘍学会 学会賞（共著）

「Free Medial Sural Artery Perforator Flap による舌半側切除症例の再建」

曾束洋平、他

Yoshida K, Noguchi K, Yamanegi K, Yoshikawa K, Omori Y, Takaoka K, Nakano Y, Kishimoto H.
LAMB3 and TACSTD2, both highly expressed in salivary gland mucoepidermoid carcinoma,
represent potential diagnostic biomarkers and therapeutic targets. J Oral Maxillofac Surg Med Pathol
2023; 35: 317-326 (一般社団法人日本口腔外科学会 第 24 回学術奨励賞受賞論文 指導・責
任著者)

専門的研究

口腔がんにおける治療抵抗性因子の解析

口腔がんの発生機序に関する分子遺伝学的解析

唾液腺癌の発癌に関与する融合遺伝子の探索

Gorlin 症候群における腫瘍発生メカニズムの研究

〔産業財産権〕

○出願状況（計 1 件）

名称：「標準化学療法不応または不耐で治癒切除不能な進行または再発癌患者の
治療のための医薬」

発明者：菊池正二郎、篠原尚、笹子三津留、三輪洋人、岸本裕充、野口一馬

権利者：(株) 三和化学、学校法人兵庫医科大学

種類：特願

番号：PCT/JP2018/011007

出願年：2018 年(2017 年 日本基礎出願)

国内外の別：PCT

○取得状況（計 1 件）

名称：「標準化学療法不応または不耐で治癒切除不能な進行または再発癌患者の
治療のための医薬」

発明者：菊池正二郎、篠原尚、笹子三津留、三輪洋人、岸本裕充、野口一馬

権利者：(株) 三和化学、学校法人兵庫医科大学

種類：特願

番号：107109442

取得年：2019 年

国内外の別：台湾

著書

医歯薬出版 口腔外科学（第4版） 白砂・古郷編

医歯薬出版 口腔外科研修ハンドブック 公益社団法人 日本口腔外科学会編